

2019年度草木染塾 第1回

- ・開催日 4月15日(月)
- ・場所 川崎市黒川青少年野外センター

2019年度の「FIT 草木染塾」が始まりました。

草木染は大変面白いです。

- ① 草木の材料によって多様な色が出せる
- ② 媒染剤とその量によって色合いが変わる
- ③ 絞り等によってさまざまな模様をつくることなど、自分だけの作品が出来ます。

午前前半は草木染の基本の講義を

① 草木染とは

化学染料が使われるようになった19世紀半ばまでは、染料は自然界から得ていました

② 日本の伝統色の歴史

日本の場合は、「日本の伝統色」として、古代より自然の色彩の変容を巧みにとらえ、利用し、色名をつけ、生活文化に生かしてきました。日本の四季の変容に重ねあわせたような色合いの素晴らしさを引き継いできたのです。草木染は、その「日本の色」をつくるのです。

『色のはじまりは薬草である』内服薬効のある生薬が染料として使われてきました。

③ 草木染の染料となる植物

④ 媒染剤 アルミニウム、鉄

⑤ 繊維の種類 動物繊維(ウール・シルク)、植物繊維(麻・木綿)、科学繊維(レーヨン)

⑥ 染色手順 等

午前後半から、実践に入りました。

今回は、ウールとシルクのスカーフを染めていきます。

まず、大量のハルジオンを細かく切って寸胴に入れて煮出します。

今回使った染料材は、ハルジオンとキバナコスモスの花です。

それぞれを煮出します(沸騰させる)。煮出した染料ができれば、生地(布)を染料に浸ける。染まり具合を確認してから、媒染液に浸ける。そして水洗いして出来上がります。

媒染剤は鉄とミョウバンを使用しました。

草木染は奥が深い、色を引き出す作業は奥が深いのだということを体感しました。

ハルジオンの持つパワー、想定外の色への変わりよう、次の講座がますます楽しみになってきました。

受講者もいろいろ

3名の受講者は、何度か経験のある人などいろいろです。実践作業は染色手順にそって忙しく進行し、自分の作品の色合いを見ながら、いろいろな面白さを体感し学ぶことができたことと思います。

(敬称略)

講師：奥村具子

助講師：中野修平、矢吹佳枝

受講者：3名――入江克昌、岡部桂子、田川裕則

(報告：田川裕則)



大量のハルジオン



キバナコスモスの花



キバナコスモスの染液



キバナコスモス (ウール、アルミニウム媒染)



ハルジオン (シルク、鉄媒染)



受講者と講師の作品